
ホゥリーグラウンド

白狐

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ホウリーグランド

【Nコード】

N5992R

【作者名】

白狐

【あらすじ】

舞台はホウリーグランド。そこには不思議な力を持つ者を王族とし、成り立っている国があった……そして、その王族に仕える者たち。これなら、敵国が攻めてきたとしても大丈夫！？

1. プロローグ、紙芝居にて……

【ホウリーウラウンド】そこは自然豊かな土地だった。そう、だったのだ。そんなのは昔の事で、今では自然など数えるほどにしかない。そして、そんな数少ない自然に周りを囲まれた1つの小さな王国があった。名は【フォレスト王国】本当に小さな国で、攻め込めば簡単に落とせるほどの領土しかない。だが、その国は結構な歴史をもつほど、長続きしている。それはなぜか？ その最大の要因は、その国を統べる王族の血筋だけが持つ、ある特別な力の所為だった

……

「そして、その王族こそが貴方の家族なのですよ？ ソウラ様」

横にどこからか持つてきた紙芝居を携え、それを捲りながら白黒の服に身を包んだ男が、目の前で不貞腐れている少年に話しかける。

「いや、俺王になりたいって希望してねえし……っていかよ、その紙芝居用の紙、どこから持つて来たんだ？」

「これは私の手製ですが？」

微笑みながらソウラの疑問に答える男。その男は何処か人間離れした雰囲気を持ち、見た目はどこかのモデル雑誌から出てきたような整った顔立ち。背も高く、こんな所で執事なんかしていないで、本当にモデルでもタレントでもしていれば人気も出るというのに……まあ、この国にそういう職業があるのかは知らないが。

「お前、妙な所で器用だな」

「戦闘時のソウラ様ほどではありませんよ」

男が平然と言つてのける。そして、ソウラが急に話題を変える。

「なあ、俺腹減ったんだけどよ、晩飯は？」

「私はモノを口にしないので、そういう事は一切聞いておりません。それより、私がなぜさっきのような説明をしていたのか、解っているのですか？」

男が少し声を低くし、ソウラに問い質す。当の本人はヘラヘラと笑いながら、優々と男の問いに答える。

「ああ、解ってるよ。俺が2人、病院送りにしたからだろう?」

「いえ、違います。正確に言えば『2人』ではなく『5人』です」

「あ? 俺があってるんだよ。確かに5人送ったけどよ、その内の3人は手前の仕業だろ!!」

少しキレかかっているソウラに、男は言い返すように呟く。

「その3人は自業自得です。王を蔑むからバチが当たったのです」

“バチを直接当てたのは手前えだろ……”

そう思ったソウラだったが、ここは言わないことにした。

「……それにしてもよ、すげえ忠誠心だな。あんなバカ親父のどこがいいんだ?」

ソウラが言った瞬間、男から殺気が膨れ上がり、そのまま無駄のない動きで己の手刀をソウラの首へともっていく……が、1撃を入れることは出来なかった。

「ルーシャ、落ち付け。坊ちゃんにケガさせつと、主が悲しむぞ?」
ちょうどソウラと男——ルーシャの間に入り込み、ルーシャの腕を掴んでいる男がいた。

1 プロローグ、紙芝居にて……（後書き）

……なんだか変なところで切ってしまってますいせん。

実はもつと長かったんですけど、『プロローグにしては……長すぎるんじゃない？』と、俺の独断で切りました。俺は書くのが遅いんで、次の更新がいつになるか分かりませんが、生温かい目で見守ってくれば幸いですw

それでは、俺の遊びとして、次のお話のCMを……

『急に王子：ソウラと執事：ルーシャの間に入ってきた男。その正体やいかに！！ 次回はソウラのお姉様登場！？！？ お楽しみに』

あ、CM意外とおもしろいかも……と、調子に乗りながら続書きを書こうと思います。

それでは、またいつか会いましょう ム

2・これでも王子ですっ！！（前書き）

～前回は～

フォレスト王国の王子、ソウラの挑発に易々とのつた執事ルーシャ。
そのルーシャの一撃を止めた人物とは……

2・これでも王子ですっ！！

ちょうどソウラと男——ルーシャの間に入り込み、ルーシャの腕を掴んでいる男がいた。その男は、己の言葉でルーシャの殺気が治まったのを確認してから、静かに手を放す。

「まあ、ルーシャもいけねえが……こいつがこうなる可能性のある言葉を言った、坊ちゃんもいけねえな」

「サルマ、説教するとまたソウラが町へストレス発散に行ってしまうすよ」

急にこの部屋の扉の方から、女の声がした。ソウラとルーシャ、それとサルマがその方向へ目を向けると、そこに居たのはきらびやかなドレスを身に纏った、いかにも姫か王女らしき女がいた。

「ハハ、嬢ちゃんのいうとおりだ。これでまたケガ人増やされちゃあ、俺の所為になっちまうなあこりゃ……」

女の言葉に笑いながら、ゆっくりと己の立ち位置を女の後ろへと移すサルマ。ソウラは女に言い返そうと口を開く。

「俺はそいつが助けなくても、自分で攻撃ぐらい避けられたっつの。手出しさせんなよ、姉貴」

「ソウラ様……ソウノ様は王位第一継承者。王になられる方ですよ。口の利き方に注意して下さい」

ソウラの喋り方に顔を顰めながら、ルーシャは指摘する。が……

「別にいいんじゃない？俺等、姉弟だし……」

軽いソウラの言葉に、ルーシャは大きなため息を漏らす。

「ええつとですね……それならまず、王子らしい服を着ることから始めましょうか？」

ルーシャの言うとおり、現在ソウラは町民とほぼ変わらないような粗末な服を身に付けていて、今いる豪華な部屋はソウラのものだというのに、当の本人が一番浮いていた。

「んあ？いいんだよ、俺はこれで。だいたい、あの服は動きにく

すぎるんだよ！！！」

「ソウラ、あまり反抗すると、ルーシャさんがお困りになってしまいますよ」

ソウノはいつの間にか、ソウラに一番近い椅子に座り、その後ろではサルマが一生懸命笑いを堪えていた。

「笑うなっ！！」

「笑わないでください」

ソウラとルーシャ、2人の言葉が重なった時に、サルマは堪え切れずに吹き出した。

「いやいや……すまん、何だかんだ言つて、結局仲が良いなあと思つちまつて……面白すぎるわ、お前達」

そうして、豪快に笑い出すサルマ。本人達は、どうしてサルマが笑っているのか不思議だったが、別に泣いてるわけじゃないので放っておくことにした。

「あ、そうそう。私はソウラに伝えることがあつて来たんです。」

ソウノの言葉に、頭の中にハテナマークを浮かべるソウラ。

「俺に伝える事……まさかっ！ 説教か！？ うわぁ……ルーシャは全然恐くねえけど、姉貴の説教は笑いながらだから、何考えてるかわかんねえ！！それが怖い！！」

さらにルーシャの悪口を言ってから、顔を顰めるソウラ。そんな弟にソウノは、優しく微笑みながら言う。

「明日の朝早く、お父様が帰ってくるそうです」

そして、その言葉に一番反応したのは、ソウノが言った相手ではなく、その者に仕えている執事だった。

「王が帰ってくるのですか！？！？ 実に1ヶ月ぶりですね。そういえば……王は何処に行っているのですか？」

ルーシャの言葉はいつも、最低限の感情しか出さない。だが、王に關しては違う。もしも、王が仮に『ソウラを殺せ』と言ったとしたら、躊躇うかもしれないが、やっぱり殺すだろう。……まあ、それぐらい敬っているという意味だ。別に深い意味はない。

「ああ……なんかよ、ほかの国の御高い連中とお茶会だと」

サルマの言葉に、へえ〜と頷くルーシヤ。だが、その息子はルーシヤとは全く別の感情を抱いていた。

“ あ、あの変態が帰って来たあ！……！！！！ ”

本当は口に出して言いたかったが、言った瞬間にルーシヤに殺されるのが安易に予想できたので、次の日の朝までソウラが口を開くことはなかった。

2・これでも王子ですっ！！（後書き）

……なんだか………変だ！

俺が考えてたのと全然違う展開にiiiiiiiiiiiiiiiiiiii！！！！！！

まあ、いいかw（って言ったら………これを見てくれた方に失礼ですね
CM、今回もヤルぜっ！！！！

『次回はっ！！ お姉様に続きお父様登場！！ お茶会から帰ってきた父から聞かされる事件とは？ そして、ソウラが父を変態と言う理由とは？？ 次回、【偉大なる王様登場！？（仮）】お楽しみに』

……はい、すいません、調子のりました。マジでスライディング土下座しますっ！！

すいませんでしたあああああああ！！！！ CM書いても、自己満足だし、俺以外見る奴なんかいねえっっの！！！！

と、自分自身を責めながら………またいつかお会いしましょう ミ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5992r/>

ホウリーグラウンド

2011年10月8日12時49分発行